


1.嚥下障害がある高齢者が脱水により肺炎を起こすプロセス

脱水と肺炎。関係がないようで実は、関係が深いのです。(1)脱水により肺炎を起こすプロセスは以下ようになります。

- 
- ① 脱水になる
 - ② 気道の粘膜の働きが弱くなる
 - ③ 痰の粘り気が増す
 - ④ 痰の吐き出しが困難になる
 - ⑤ 痰の細菌が増殖し、肺に入り肺炎となる

食べ物の誤嚥による肺炎よりも、増殖した痰の細菌の感染により肺炎になる利用者の方が多いです。

胃ろうの方が肺炎になるケースがありますが、ほとんどが痰等の細菌によるケースです。脱水症から肺炎になることが多く、日々の観察が重要です。

一度、誤嚥性肺炎を起こすと、肺の機能低下や、体力の低下により咳が弱くなり、肺炎を繰り返すことが多いです。

吐き出す機能が弱まってくると、誤嚥をしてもムセが起きなくなることがあります。

また、肺炎を起こしていても、体温があまり上昇しない方もいます。施設入所者は、平常時の体温が低めの方が多いということも加えて理解しておく必要があります。

肺炎を起こしていても、体温が一気に 38 度とかに急上昇しないことの方が多いです。看護師と連携して、血液検査で炎症反応を調べる方法もありますが、日頃のケアではなかなかそこまでは出来ていない施設が多いと思います。

水分摂取量が少ない入居者をマークしておき、口腔ケアを十分に行った上で、総合記録シートで水分摂取量と食事摂取量と体温の微妙な変化を、総合的にチェックしておくことが誤嚥性肺炎の早期発見に繋がります。

【介護の知識 50 NO.10 より】

発行：鷹栖さつき苑 尾上健介氏

製本：小規模特別養護老人ホーム さくら橋
ケア推進委員会